

## 7 釈尊から空海まで

【全6回】／開催方法：



よしだ こうせき  
吉田宏哲

大正大学名誉教授  
真言宗智山派宗機顧問  
宥勝寺住職



受講料 会員料金：¥13,000 早割価格：¥12,000（納入期限：5月2日）

【日 程】【全6回】 3回／月 第2・3・4月曜日  
(5/9、5/16、5/23)

【時 間】13:30～15:00・15:20～16:50

■受講に必要なもの

[テキスト] レジューメ配布

「人生は四苦八苦だ」と言われると、誰しも「そんなことは無い、人生には楽しいことも一杯ある」と反論するでしょう。けれども、四苦八苦の「苦」とは「思い通りにならない」という意味で、「四苦」とは「生まれる、年をとる、病気になる、亡くなる（生老病死）」ことだと言われると、誰もがその通りだと納得すると思います。更に人は誰かを愛して生きていきますが、その愛する人にいつかは別れるということも、やはり思い通りにはならないのです。

さて、それでは人類の歴史上、「人生は四苦八苦だよ」と言った最初の人は誰だったかご存じでしょうか？

その人こそ仏教の開祖、お釈迦さまなのです。お釈迦さまは何故そんなことを言われたのか。その理由は、お釈迦さまは今から2500年以上昔のインドの釈迦国の王子だった方ですが、若いころ、老人や病人や葬式に出会って、いずれは自分もそうなるということを知って、この問題を解決しようとし、城を出て修行の旅に出、6年間の難行苦行の後に、遂に悟りを開いてこの問題を解決した。そこでその解決は一切の苦からの解放であるから、大安楽の境地であり、一切の思い通りにならないことからの解放であるから、大自在の境地であった（涅槃）、とされています。そこでそれではどのようにしてその境地に到達できるのかを、人々に説法された。

その最初の説法が四つの真理で、その第一の真理が前述の「一切が苦である（生老病死等は思い通りにならない）」というものだったのです。そこでお釈迦さまはこれを解決したのですから、どのように解決したかの方法が、次の三つの真理によって説かれました。即ちその第二の真理は「苦には原因の集まりがある」という真理。第三は「苦の原因の集まりを無くせば、苦は無くなる」という真理。第四は「苦の原因の集まりを無くす実践の方法」という真理です。

これを聞いて人々はそれでは自分たちもお釈迦さまに従って修行し、お釈迦さまと同じ境地に至りたいと願い、ここに仏教教団が成立し、その後、2500年の長きにわたって仏教が続いているのです。

この四苦八苦からの解放の方法論に関して、その後の仏教の歴史的展開を辿り、最後に真言密教の開祖日本の空海に至るまでの経過をこの授業では考察していきます。目次は次の通りです。

- I 釈尊以前のインドの宗教・哲学と釈尊仏教
- II 世界の宗教の類型的考察
- III 道徳と宗教の違い
- IV 小乗仏教と大乘仏教（中観・唯識・華嚴・天台）
- V 真言密教（『大日経』・『理趣経』）と空海